

項目	観点		
		図画工作(9・開隆堂)	図画工作(116・日文)
1 学習指導要領 の教科の目標 を達成するた めに取り扱う内 容の選択につ いて	(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりするためにどのように配慮されているか。【知識及び技能】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考作品を活用して、友達や自分の作品の違いやよさを感じながら、つくる喜びを味わえるよう配慮されている。</li> <li>・高学年の題材には、多様な表現技法を駆使した作品例がたくさん取り上げられている。</li> <li>・児童が見通しをもって表現できるように配慮されている。</li> <li>・表現の幅を広げるための用具の使い方が写真とコメントで掲載されており、自分の感覚や行為の幅を広げやすい。</li> <li>・巻末の「学びの資料」では、各学年や発達段階に応じた用具の使い方を分かりやすく示している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考作品が全体的に大きく掲載されている。作者の思いやイメージを「吹き出し」の言葉で示すことで、題材の造形的な視点に注目して表現しやすいように配慮されている。</li> <li>・児童が意欲をもって取り組めるように、どの学年にも身近な材料を使った題材が取り上げられている。</li> <li>・6年間を通して同じ材料や用具に繰り返し関われるように、題材を系統的に設定している。発達段階に応じて学びを深めていくことができるような配慮が見られる。</li> <li>・巻末の「材料と用具」では、発達段階に応じて自分の思いを表現するための用具の使い方を分かりやすく示している。</li> </ul>
	(2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、造形的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりするためにどのように配慮されているか。【思考力・判断力・表現力等】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品のよさを感じ取れるように、大きく多様な視点で捉えた作品を掲載している。</li> <li>・他教科との関連を持たせており、作品に対する見方・考え方を深められる。</li> <li>・季節や発達段階に合った造形遊びの題材が豊富に用意されている。</li> <li>・作品の製作過程を丁寧に示しており、行為を積み重ねていきながら構想していくことや作品の見方を深めることへの配慮がされている。</li> <li>・吹き出しに活動のヒントとなる言葉を入れたり、活動の様子がわかる場面の写真を示したりすることで、発想・構想の能力の育成に配慮している。</li> <li>・試行錯誤している姿など、発想・構想の力を働かせている場面を多く掲載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が驚き・興味を示すような作品を掲載することで、創造活動への意欲を喚起し、発想・構想の能力を高めることに配慮している。</li> <li>・「吹き出し」には活動のヒントが入っており、発想・構想の能力の育成に配慮している。</li> <li>・参考例として取り上げられている作品が、児童や作家の作品だけでなく、自然物や動物の写真などバリエーションに富んでいて、発想を広げたりふくらませたりしやすい。</li> <li>・大きさや、形、素材など様々なタイプの作品を掲載しており、児童の発想や構想がしやすいように構成されている。</li> <li>・わくわくする題材名やリード文、活動の写真により、「自分ならこうしよう」と思考を深めていける工夫がある。</li> </ul>
	(3) つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培うために、どのように配慮されているか。【学びに向かう力・人間性等】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や日本の伝統の美を紹介しており、郷土に関わる造形活動への興味・関心を高めることに役立っている。</li> <li>・2020年東京オリンピックに関わる内容やプログラミング教育を意識した学習など、現代的な内容や課題を紹介している。</li> <li>・授業の中で身に付けた力が、身近な社会とつながっていることを理解し、実感することができるように配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「図画工作のつながりひろがり」のページでは、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養うために、地域や美術館との連携について紹介している。</li> <li>・作品のよさを友だちと認め合う様子や、作品を家庭で使う様子などを掲載し、将来に渡って豊かな生活を創造していこうとする態度の育成をめざしている。</li> <li>・学んだことを生活や社会に生かすことや、よりよい人生を送るために感じたり考えたりすることの大切さを紹介している。</li> <li>・インパクトのある日本や外国の美術作品や自然の美を数多く掲載しており、幅広く感性を育み、豊かな情操を養うための配慮がされている。</li> </ul>
2 内容の程度及 び取扱いにつ いて	(1) 図画工作科における見方・考え方を働かせるために、どのような工夫が見られるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・完成作品だけでなく、発想・構想が働いている場面がたくさん掲載することで、題材の中で思考や判断を繰り返しながら表現力を高めていけるような工夫が見られる。</li> <li>・各学年で取り組みやすい鑑賞題材を通して、各国の文化を尊重する態度を養うことができるように工夫されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のポイントや児童のつぶやきをたくさんの「吹き出し」で紹介しており、造形活動に対する見方・考え方を育てることに有効である。</li> <li>・身近なものや美術作品を掲載したり、実際に手や身体を使って発想を広げられるようなテーマをなげかけることで、児童自身が造形的な見方や考え方を広げたいくなるような工夫がされている。</li> </ul>
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現のために、どのような工夫が見られるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのページにも学習の「めあて」と「ふりかえり」があり、児童が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。</li> <li>・言語活動やコミュニケーションを使った題材、共同で行う活動や他者とつながる題材を取り入れており、対話を通してより深い学びができるように工夫されている。</li> <li>・巻末の「学びの資料」には、発想や構想を広げるための手立てや対話的な学習のための話合いの仕方が詳しく書かれている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より一層深い学びにつながるように、キャラクターが児童に新たな気付きを促している。</li> <li>・「まとめ」は児童にわかりやすい言葉で語りかけるように書かれていて、その言葉に対して児童が自分の気持ちに置き換えて考えることができる。</li> <li>・友達と作品を見合う活動の様子が数多く掲載されており、対話的な深い学びを実践しやすい工夫がされている。</li> </ul>
	(3) 表現や鑑賞の活動の中で共通に必要な資質・能力である[共通事項]を身に付けるために、どのような工夫が見られるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考作品や製作過程の写真が大きく掲載されているので、形や色などに気付かせたり、自分なりのイメージをもたせたりするのに有効である。</li> <li>・形や色などがわかりやすいように工夫されている。識別しやすい配色や形状のマークが配置されている。</li> <li>・学習指導要領にある育てたい資質や能力を3つの目標にまとめ、児童に親しみやすいキャラクターにするなどの工夫が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形や色などに気付いたり、自分なりのイメージをもったりするのに有効参考作品や製作過程の写真が、数多く掲載されている。</li> <li>・各ページに子どもらしい参考作品を掲載している。</li> <li>・巻頭ページには、作家の作品や美を感じさせる写真を配置したり、鑑賞のページを充実させたりして、共通事項の定着を目指している。</li> <li>・キャラクターの吹き出しにより、活動の中で共通事項を身に付けるために着目する視点を分かりやすく示している。</li> </ul>

3 構成・配列・分量	(1) 題材の構成や配列には、どのような特色があるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・左上に題材で使う材料や用具が紹介されており、活動の流れや必要な材料や用具を一目で把握できる。</li> <li>・多様な参考作品が配置されており、発想が広がり、自分の表現を追究しやすい。</li> <li>・「みんなのギャラリー」では、江戸扇子など、日本の伝統的な技を紹介している。</li> <li>・体全体で材料にかかわるもの、地域や学校の実態に合わせられるもの、ICT機器やデジタルデータを活用するものなどの内容が充実している。</li> <li>・題材の構成や配列のバランスがよく、指導計画を立てやすい。幼児期や中学校との接続に配慮した紙面構成になっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の発想が広がるような多様な図版や構成を工夫した参考例を数多く掲載している。</li> <li>・教科書の左上に色別で題材の配列が示されており、各題材がバランスよく配置されている。</li> <li>・幅広い造形活動が紹介されており、各学校の実態に応じて使うことができる。</li> <li>・中学年は絵画の割合がやや高い傾向がある。高学年は鑑賞が充実しており、日本や西洋の美術を幅広く取り扱っている。</li> <li>・季節や発達段階に合った造形遊びの題材が豊富である。</li> <li>・幼児期や中学校との接続に配慮した構成で、学年や発達段階に応じて系統的に題材が設定されている。</li> </ul>
	(2) 題材の分量には、どのような特色があるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材数は各教科書とも20前後で、学年に応じた題材の内容と分量となっている。</li> <li>・内容が厳選されており、バランスよく配列されている。</li> <li>・絵や工作が多い傾向が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科書20～24の題材で構成されており、領域がバランスよく配列されている。</li> <li>・地域や学校の実態に合わせて活動が選択できるように豊富な題材が掲載されている。</li> <li>・土を描画剤に使用するなど、新たな発想の題材が見られる。</li> </ul>
4 表記・表現	(1) 用語や記号、レイアウト等について、どのような工夫が見られるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の3つのめあてを、それぞれに対応したキャラクターが語っており、児童がつねにめあてを意識しながら創作活動に取り組めるように配慮している。</li> <li>・読みやすい書体で、文字の大きさを発達段階に合わせて変えている。</li> <li>・右下に「ふりかえり」の視点が記載されている。題材に応じて安全面への配慮を記載している。</li> <li>・文の区切りなどにインクルーシブ教育への配慮が見られる。また、ユニバーサルデザインにも十分配慮している。</li> <li>・各ページの下部の「あわせて学ぼう」では、他教科とのつながりを示している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丸ゴシック体の文字は優しい感じで読みやすい。</li> <li>・色やイラストを効果的に組み合わせたマークにより、題材の内容や活動の全体像が理解しやすい。</li> <li>・各ページの下に製作に必要な材料がイラストで記されている。</li> <li>・「気を付ける点」と「片付け方」、「ふりかえり」についてページの下にわかりやすく枠をつけて記載している。</li> <li>・カラーユニバーサルデザインに配慮しており、見やすい紙面構成である。</li> <li>・フクロウのマークで道徳とのつながりを示している。</li> </ul>
	(2) 写真や挿絵、図表等について、どのような工夫が見られるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのページにも児童が生き生きと主体的に造形活動に取り組む写真が載せてある。</li> <li>・表紙の裏のページは、カリキュラム編成目次の構成になっており、1年間の学習が見通しやすい。また、紙面全体が親しみやすく、イメージがふくらみやすい写真やイラストの構成になっている。</li> <li>・製作手順、材料や用具の使い方等についての写真は、意図が明確で読み取りやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表紙の裏のページには、児童が興味・関心を示す作品や素材等の写真が載せられており、創作意欲を高めることにつながっている。</li> <li>・写真やイラストなどで、外国の児童や幼児、高齢者、障害のある人などに関わる姿を掲載しており、多様性を尊重しながら主体的に学べるように配慮している。</li> <li>・創作意欲をかき立てる斬新な写真を数多く掲載するなど、児童がわくわくするような紙面構成になっており、主体的な学びにつながる。</li> </ul>
5 体裁、使用上の便宜	装丁や使用上の便宜等については、どのような工夫が見られるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A4縦、58ページ。しっかりした装丁で使いやすい。</li> <li>・どの題材もページ見開きで活動の流れを一目で把握できる。</li> <li>・各ページに、題材名とともに主に使用する用具や材料が明記されており、活動の見通しや目標がわかりやすい。</li> <li>・各題材にQRコードを掲載しており、ICT機器を利用して用具の使い方や作り方などの動画や参考作品を見ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A4縦、66～68ページ。しっかりした装丁で使いやすい。</li> <li>・どの題材もページ見開きで活動の流れを一目で把握できる。</li> <li>・各ページに、題材名とともに主に使用する用具が記されており、活動の見通しや目標がわかりやすい。</li> <li>・巻末には、材料と用具の使い方や、発想や構想を広げるための手立てが詳しく書かれている。</li> <li>・題材の領域分類が、各ページの左上にアイコンで記されている。</li> <li>・デジタルコンテンツが利用できるように配慮してある。</li> </ul>